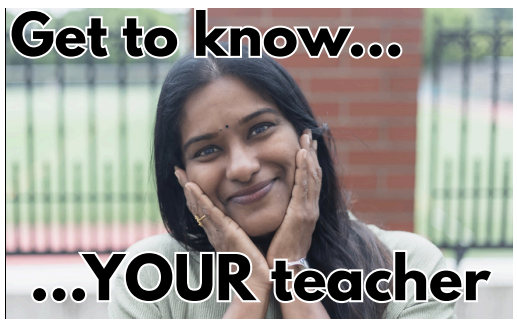
LEADERSHIP CORNER

Department focus

LANGUAGE B

SPORTS NEWS



Tamagawa Academy - IB Division

NEWSLETTER

Issue 03 July 2026

English Drama Club

長時間の熱心なリハーサルから本番の舞台制作にいたるまで、メンバー全員が一丸となって協力し、物語に命を吹き込んでいきます。

ITC

International Trade Challengeで大勝利を収めました！

Learner Profile Awards

一人ひとりの小さな行動と前向きな姿勢が、私たちのコミュニティに未来へとつながる大きな、そして持続的な影響を与えてくれます！

Jiyukenkyu

今月の特集では、自由研究「労作」に取り組む生徒たちの素晴らしい成果の一部をご紹介し、彼らの豊かな創造性と、研究への熱い情熱に迫ります。

Reihai

6月22日、IBの6年生から9年生を対象とした特別礼拝が行われ、小原芳明学園長による講話が行われました。

Mr. OSAWA

20 years at Tamagawa!

今回の特別インタビューではMr.Osawaの教員生活20周年という輝かしい歩みを称え、これまでのキャリアを形作ってきた数々の経験、挑戦、そして成功の軌跡を振り返ります。

MONTHLY HIGHLIGHTS

- Canada trip briefing
- Service workshop
- Rinkangakkou briefing

MOCK EXAMS

12年生がDP模擬試験を終えました！ 受験に向けて戦い抜いた生徒たちとともに、さらなる成長へのヒントを温かく見守りながら支えてくださった保護者の皆様の声をお届けします。

Kobato Kindergarten

生徒たちは、楽しいアクティビティのサポート、そして数々の貴重な学びの体験を通じて、幼稚園児との特別で温かいひとときを過ごしました。

One Stage at a Time

11年生の Yさんが、先日上演された舞台『The Wedding Dress』に出演しました！ 表現者としてスポットライトを浴びる彼女の、これまでの歩みを詳しくご紹介します。

Exchange Program

STUDENT COUNCIL EVENT

Mr Furnival's message

7月号のニュースレターへようこそ。

6月のIBディビジョンは、教室の内外を問わず、いつも以上に目まぐるしくも充実した1ヶ月となりました。今月号を通じて、その活気あふれる様子を皆様に楽しんでいただければ幸いです。今月のニュースレターに通底するテーマの一つは、パフォーミングアーツにおける生徒たちの活躍です。学内の「英語劇」を通じた活動、あるいは児童生徒たち自身の興味から生まれた挑戦など、掲載されているインタビューやレポートが、他の児童生徒たちにとっても一歩を踏み出す刺激になることを願っています。

先日のIB全校集会で、私は「アイデンティティやコミュニティ、そして共有された歴史を創り出す歌の力」について話しました。ここ数週間、6年生から12年生が音楽祭に向けて準備する姿を見て、まさにその力が体現されているのを実感しています。児童生徒たちの歌声の力強さ、そして音楽科の教員チームの情熱に、私は深く心を揺さぶられました。今週木曜日の音楽祭にぜひ足をお運びいただき、彼らの雄姿を一緒に称えていただければ幸いです。私たちは彼らを心から誇りに思っています。また、歴史といえば、今月はMr.Obaraを礼拝にお迎えできたことを大変光栄に思います。本校の教育理念の原点についてお話しいただきましたが、その精神は1929年の創立当時とまったく変わらず、現代の私たちにとっても極めて重要な教えであると改めて実感させられました。

私は常々、コミュニティの重要性、そして「教員・児童生徒・保護者」の結びつきの大切さを語っています。今月号の2つの記事は、まさにその強固な繋がりを示すものです。

Mr Osawa は過去20年間にわたり、私たちの学校コミュニティの大きな柱として貢献してこられました。これは本当に素晴らしい功績であり、先日のIB全校集会でみんなでお祝いすることができました。 Sさんと Kさんが先生にインタビューを行ってくれたのですが、たくさんの素晴らしい振り返りや、懐かしい「たまごっち」の思い出話まで飛び出し、とても素晴らしい時間となりました！

12年生は、本番さながらの環境で模擬試験（Mock Exams）に臨み、最終試験の雰囲気を肌で体感しました。この経験は、11月の最終試験に向けた緊張を和らげる上で、間違いなく大きな助けとなるはずです。また、試験監督のボランティアとしてご協力いただいた保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。私たちのディビジョンにこれほど多くの保護者の方が積極的に貢献したいと手を挙げてくださり、教員たちの負担を大きく軽減していただけたことは、本当に素晴らしいことです。皆様から寄せられた振り返りのコメントも、とても楽しく拝読しました。

この文章を書いているちょうど今、日本代表がワールドカップでブラジルに敗れ、惜しくも敗退が決まったところです。非常に悔しい結果ではありますが、ここ数年で日本サッカーがどれほどの進化を遂げてきたかに目を向ける価値があります。私が1998年に初めて来日したとき、日本はワールドカップで全敗したばかりでした。しかし今や、世界舞台で決して侮れない存在となり、世界の強豪をも破る力を持っています。彼らの前向きな姿勢とチームワークは、世界中で多くの称賛を集めました。私たちも彼らの姿から大きな教訓を学ぶことができます。ちなみに、私の母国であるイングランドはまだ勝ち残っています……今のところは！毎試合観るのがストレスでお腹いっぱいになりそうなので、早く全日程が終わってほっとしたいのが本音です。

夏が近づく中、これからも楽しみなイベントや取り組むべきことが目白押しです。6年生の林間学校から、12年生の口頭試問（oral examinations）にいたるまで、児童生徒たちは常に全力で駆け抜けており、その姿は毎日私たちを誇らしい気持ちにさせてくれます。

木曜日の音楽祭で、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

Oliver Furnival
Head of IB Division

ホーム

LEADERSHIP COMMENTS

Mr. Cook

最先端のIB教育法を牽引するという本校のコミットメントの一環として、教員チームは2027年8月に導入される次世代の「Enhanced MYP」フレームワークに向けて、すでに先を見据えた積極的な準備を進めています。
今後の改定では、「3つのC」—— コンテンツ（学習内容）、コンセプト（概念）、コンテキスト（文脈）—— に、より明確な焦点を当てる一方で、評価基準を3つのコア基準へと簡素化し、生徒たちにとっての分かりやすさとフィードバックの質を最大限に高めていきます。
本校のコア・カリキュラムの強みはそのまま維持されます。私たちは、進化を続けるグローバルな教育環境の中で生徒たちが今後も成長し続けられるよう、各教科で協力し合い、ユニットプランナーや「探究の柱」の円滑な移行に取り組んでまいります。

Ｉ12年生の生徒たちが模擬試験を無事に終えたことを、心から誇りに思います。公式のIB試験と同じ手順や規則に従って臨んだため、この1週間は大変厳しいものでした。
この1週間を通じて、生徒たちの決意と粘り強さに感銘を受けました。プレッシャーや長時間の試験にもかかわらず、生徒たちは互いに支え合い続け、その過程では笑顔や笑い声も絶えませんでした。
この模擬試験の終了は重要な節目であり、この経験が生徒たちの自信を育み、これから控える本試験に向けた準備に役立つことを願っています。12年生の皆さん、本当によく頑張りました！

Ms Wei

Mr. Soai

とてもうれしいニュース！IB10年生と11年生が立て続けに人を助けたというニュースを聞いて感動。脱水症になった小学3年生に声をかけただけでなく、近くの自販機で飲み物を買って飲ませ、手分けして先生へも連絡して、その小学生は無事に登校。また前を歩いていた年配の保護者がふらついたので声をかけ、休ませてキャンパスストアで休憩、無事に帰宅できたとのこと。常にある場面ではないけれど、とっさに的確な判断をするのは時には難しい。その場面に逃げずに「真っ先に微笑みを持って対応した後輩たち」を大いに誇りたい。

玉川学園には「歌に始まり、歌に終わる」という言葉があり、歌うことは日々の暮らしに自然に息づいています。日常的に歌を口ずさみ、仲間と声を合わせる積み重ねは、豊かな感性や他者への思いやり、自己表現力を育みます。
音楽祭はこうした「生活音楽」の延長線上にあり、単なるステージ発表が目的ではありません。仲間と音楽をつくり上げる過程で、互いの声に耳を傾け、美しさに心を動かされる経験こそが重要です。そうした感動は日々の暮らしに潤いを与え、人をより温かく豊かにします。
これは玉川学園の全人教育が掲げる六つの価値の一つ、「芸術」の実践です。さまざまな表現活動を通して美しさを感じる心を育み、自らを表現し他者と共感する力を培うことで、人は「まるみのある人間」へと成長します。音楽祭を通じ、子どもたちが美しさに気づき、仲間と感動を分かち合う姿の中に、この「芸術」の価値が息づいています。

Ms Takahashi

ホーム　次へ

LEADERSHIP COMMENTS

Mr. Serpico

ワールドカップが盛り上がりを見せる中、今はサッカーのことを考えている方も多いのではないでしょうか。そんな中、私の頭の中にあるのはバスケットボールです。私が以前から尊敬している人物の一人が、NBAゴールデンステート・ウォリアーズのヘッドコーチ、スティーブ・カーです。カーは選手として5回、ヘッドコーチとして4回、合計9回のNBAチャンピオンに輝いています。しかし、私の心に最も残っているのは戦術やプレーではなく、「最高のチームは喜びを持ってプレーする（play with joy）」という彼の考え方です。
教育もバスケットボールと同じように、時に厳しく、大きな責任とプレッシャーを伴います。期待に応えなければならない場面もあれば、失敗や困難に直面することもあります。思い通りにいかない日も少なくありません。学校では、締め切りや会議、メール対応、そして子どもたちを支えるためのさまざまな課題に追われ、知らず知らずのうちにその忙しさやストレスに心を奪われてしまうことがあります。

そんなとき、カーの言葉を思い出します。喜びとは、仕事が終わった後にようやく得られるものではなく、日々の仕事の中に自ら見いだし、持ち込むものなのだということです。
私にとって「喜びを持って教える」とは、この仕事の価値を実感できる小さな瞬間を大切にすることです。生徒が難しい内容を理解できた瞬間、教室中に笑顔が広がったとき、心に残る質問を受けたとき、あるいは困難を乗り越えて成長する姿を目にしたとき。その一つ一つが、この仕事の素晴らしさを改めて教えてくれます。もちろん、それらが教育の難しさをなくしてくれるわけではありません。しかし、「なぜ私は教師という仕事を選んだのか」という原点を思い出させてくれる大切な瞬間なのです。
喜びを持って教えるということは、毎日が楽しいふりをすることではありません。困難な出来事だけに心を支配されず、それだけが学校生活のすべてではないと考えることです。締め切りも、課題も、思い通りにいかない日もこれからも必ずあります。しかし同じように、笑い合い、学び合い、生徒たちの成長をともに喜ぶ機会も、これからも必ずあるはずです。
結局のところ、教師という仕事は大きな特権だと思います。私たちは毎年、自分自身を見つけ、未来への可能性を広げようとしている若者たちの人生の大切な時期に関わる機会をいただいています。そのことへの感謝を、私は決して忘れたくありません。その思いを持ち続けることができれば、自分自身が「喜びを持って教える」だけでなく、その姿勢を周りの人たちにも広げていけるのではないかと思っています。

日本だけでなく多くの国で、国や法律のレベルでSNSなどの利用を制限したり検討したりしています。なぜ規制する必要があるのでしょうか。規制しなければならないような問題点があるのでしょうか。
さて、皆さんの使い方に問題点はありませんか？自分で気づかないうちにマナーを逸脱していないでしょうか。

Mr. Iizuka

Mr. Hinchey

今月、4名の生徒に「Raz-Kids（ラズキッズ）修了証」を授与しました。受賞した生徒たちは、Raz-Kidsに収録されているすべての本を網羅し、それぞれの本で「聴く」「読む」「読解クイズに合格する」というステップをすべてクリアしました。これはMYP（中等教育プログラム）の生徒たちにとって非常に大きな挑戦であり、彼らの自己管理能力と粘り強さの証明でもあります。
受賞者は、中学2年生（Grade 8）のA.Y.さんとY.M.さん、そして中学3年生（Grade 9）のH.K.さんとL.O.さんです。皆さん、おめでとうございます！
まもなく始まる「サマー・リーディング・チャレンジ（夏休みの読書チャレンジ）」を経て、さらに多くのMYP生にこの賞を授与できることを楽しみにしています。

戻る　　ホーム

LEARNER PROFILE AWARDS

Y.S. (G6) - Knowledgeable, Communicator: 算数の授業において、分数の概念を深く徹底的に理解しており、その知識を活かして、基本問題から応用問題（見たことのない複雑な問題）にいたるまで、見事に解き進めることができます。また、I&S（社会科）の授業でも、自分が持っている知識をためらうことなく周囲の仲間に共有し、常に高い集中力で授業に取り組んでいます。

Y.H. (G6) - Self-management: 常に授業への準備を万全にして教室にやってきます。机の上にはいつもその時間にふさわしい教材や道具がしっかりと整えられており、授業に対する深い理解と、高い自己管理の姿勢を自ら実践して示してくれています。

R.Y. (G7) - Knowledgeable: 数学の授業において、ユニット1で学んだ重要な数学的知識やスキルをしっかりと理解していることを示し、それらを正確に応用して問題を解くことができました。

R.Y. (G7) - Principled, Caring: 科学（理科）の授業において、たとえ困難な状況であっても、常に「正しい方法」で物事に取り組むことができます。また、ホームルームでは、毎日の美化・清掃活動をスムーズに管理・運営し、強いリーダーシップを発揮してみんなを支えています。

R.O.(G8) - Principled: 落とし物のPASMOカードを見つけ、持ち主が見つかるようにと、すぐに担任の先生に届けてくれました。

Y.O. (G8) - Principled: 落とし物のPASMOカードを見つけ、持ち主が見つかるようにと、すぐに担任の先生に届けてくれました。

Y.O. (G8) - Communication skills: 授業中、常に進んで質問に答えたり、自分の考えを自信を持って周りに共有したりする積極性を一貫して発揮しています。

R.T. (G9) - Thinker: 明るく、集中力があり、いつも周りを気遣ってくれる生徒です。批判的（クリティカル）かつ創造的な思考スキルを発揮して複雑な問題を解決し、さらに、科学（理科）における新しい問題を解くために数学をどう応用したか、その戦略をクラスメイトに分かりやすく説明して、みんなの理解を助けてくれました。

Y.O.(G9) - Risk-taker: 課題を非常にスピーディーに終わらせることができ、指名された際には、科学（理科）の問題解決に向けた自身の戦略をクラス全体に進んで共有し、解き方の手順を堂々と説明するという挑戦に挑んでくれました。

S.I. (G10) - Thinker: 5月の体験授業（Trial Lessons）において、臨機応変に考えて行動できる素晴らしい力を発揮しました。彼は2026年の「Math Day」で披露した自作のジェパディ（クイズ）ゲームを実演した際、このゲームが本来6〜8年生向けだったため、参加した4〜5年生が（玉川の先輩たちのサポートがあっても）解答に苦戦していることに気づきました。そこで彼は、休み時間の間にすぐさまゲームの簡易版を作成。そのおかげで、後半のグループの子供たちは、より楽しくて充実した時間を過ごすことができました!

E.I. (G11) - Research and Communication Skills: ESS（環境システムと社会）の授業において、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に関するリサーチとプレゼンテーションを、極めて優秀かつ見事に行いました。

Y.S. (G11) - Research and Communication Skills: ESS（環境システムと社会）の授業において、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に関するリサーチとプレゼンテーションを、極めて優秀かつ見事に行いました。

S.O. (G12) - Inquirer: ESS（環境システムと社会）の授業において、模擬試験に向けた準備を進める中で、自分自身だけでなくクラスメイト全員の学びのプラスになるような、核心を突いた的確な質問をいつも投げかけてくれています。

E.Y. (G12) - Inquirer: ESS（環境システムと社会）の授業において、模擬試験に向けた準備を進める中で、自分自身だけでなくクラスメイト全員の学びのプラスになるような、核心を突いた的確な質問をいつも投げかけてくれています。

S.C.(G12) - Inquirer: ESS（環境システムと社会）の授業において、模擬試験に向けた準備を進める中で、自分自身だけでなくクラスメイト全員の学びのプラスになるような、核心を突いた的確な質問をいつも投げかけてくれています。

English Drama Club

誰もが心を奪われる華やかなカーテンコールの裏側には、数え切れないほどの努力の時間、溢れる情熱、そして部活にかける強い絆（club spirit）があります。今回は、英語演劇部（English Drama Club）の Hさんと Kさんにインタビューを行い、音楽が鳴り響いた瞬間にパフォーマーの頭の中を駆け巡るリアルな想いや、劇場が大きな歓声に包まれた瞬間の感動について、話を聞きました。

H.K. - Grade 9

— 音楽が鳴り響いたまさにその瞬間、頭の中にはどのような想いが駆け巡っていましたか？

音楽が始まった瞬間、まず頭の中に溢れてきたのは、先輩方からもらったたくさんのフィードバックでした。先輩たちのアドバイスのおかげで、本番中に自分がどこに一番集中すべきかを正確に思い出すことができたんです。でもその直後、部活動での練習の思い出がドッと押し寄せてきました。みんなで一生懸命頑張った日々や、全員で一緒に歌って踊る時にいつも感じていた純粋なワクワク感です。最終的にステージの上で感じていたのは、私たちのこれまでの集大成をついに披露できるという、圧倒的な喜びと興奮だけでした。

— 観客の皆さんからの反応で、一番嬉しかったものは何ですか？
一番嬉しかった反応は、間違いなく曲が終わった瞬間の、地鳴りのような大歓声です！会場全体の歓声を聞いた瞬間、信じられないほどのエネルギーが体に満ちあふれて、ものすごい達成感を感じました。自分のコンフォートゾーン（居心地の良い場所）を抜け出し、このパフォーマンスに全力で挑戦して本当に良かったと、心から思えた瞬間でした。

K.V. - Grade 9

— 英語演劇部が、学校にミュージカル映画のような魔法を届けようと決めたのはなぜですか？

ありふれた日常の学校生活が、ミュージカルの世界へと少しずつ移り変わっていく様子が面白いと思ったからです。パフォーマンスはまず、ごく普通の教室の風景から始まります。そこから歌とダンスを通じて、ステージの空間がゆっくりとミュージカル劇場の世界へと変貌していくのです。これまでの英語演劇部の公演とは少し異なるコンセプトを取り入れたことで、観ていてワクワクするようなストーリー性を生み出すことができました。
私たちのサマーコンサートが、皆様がこの暑い夏を元気に乗り切るための活力になっていれば、部員一同とても嬉しく思います！

STUDENTS' COUNCIL EVENT

By M.M. and K.I.

私たちは学年代表として、6月10日に開催された「House Event」の企画・運営において、生徒会長の M.M.さんと副会長の S.S.さんをサポートしました。企画段階では、約345名の生徒を対象とした2つの大きなアクティビティを用意していました。お絵描きリレーやフォトチャレンジといった様々なミッションが用意された「スカベンジャーハント（借り物・宝探しゲーム）」と、もう一つは「王様とり」です。

あいにく当日は突然の雨に見舞われ、みんながとても楽しみにしていたスカベンジャーハントは中止にせざるを得ませんでした。しかし、私たちはすぐに気持ちを切り替えて臨機応変に対応し、「王様とり」の会場を体育館へと変更しました。限られた屋内スペースとなるため、ゲームエリアと観客席を明確に分けるなど、境界線の管理を徹底しました。さらに、345名もの生徒全員にルールを浸透させることは大きな挑戦でした。生徒会、特に会長と副会長は、ゲームが少しでも円滑に、そして安全に進むよう、何度も説明を重ね、デモンストレーションを行い、常に生徒たちを誘導し続けました。

イベントを振り返ると、6年生から12年生までの生徒が協力し合い、絆を深め、一生懸命に取り組んでいる姿を見ることができ、非常に大きなやりがいを感じました。このイベントを通じて、私たちは将来必ず役に立つリーダーシップやリスク管理能力を養うことができました。私たちを引っ張ってくれた Mさんと Sさん、そして企画から運営までの全プロセスを通して支えてくださった先生方、特に Mr. Maoate に心から感謝いたします。皆様のサポートがあったからこそ、このイベントを成功させることができました。

Department focus: LANGUAGE B

English Language Acquisition

K.H. - Grade 6

6年生の「Language Acquisition（言語習得）」の授業では、今、メールでのやり取りを含めた「友情」について学んでいます。

このトピックの中で、私は「私たちはどのような関係を築いていくべきか」について学ぶことを楽しんでいます。正直に言うと、どうすればもっと良い関係を築けるのか、まだよく分からない部分もあります。だからこそ、この機会を利用してクラスメイトともっと仲良くなりたいと思っています。例えば、これまでにあまり話したことがないクラスメイトに自分から話しかけてみたり、宿題で困っている人がいたら優しいメッセージを送ってみたりすることから始められそうです。

この単元はATLスキル、特に「コミュニケーション・スキル」と「社会性（ソーシャル）・スキル」に深く結びついています。なぜなら、コミュニケーションをとることは新しい友達をつくるきっかけになり、より良い関係を築くためには社会性スキルが欠かせないからです。

これからは、クラスメイトと一緒にコミュニケーション・スキルや社会性スキルをもっと高めていきたいです。私の目標は、お互いを理解し、尊重し合える最高のクラスを作ることです。Language Acquisitionの授業で学んだことを活かして、みんなとより良い関係を築いていくのが今からとても楽しみです！

Japanese Language Acquisition

H.I. - Grade 8

「Japanese Language Acquisition（日本語言語習得）」の授業では、日本や世界各国の校則、特に厳しい校則について学びました。本格的なリサーチを始める前に、私たちは「制服は義務化すべきか」など、学校で何が許可され、何が禁止されるべきかについてクラスで議論しました。その後、様々な国の校則について調べ、その結果をお互いに共有しました。また、なぜそのような一風変わったルールが存在するのか、それが異なる社会や文化の中でどのような役割を果たしているのかについても話し合いました。

さらにクラスのみんなで、生徒、保護者、そして先生の役割に分かれてロールプレイを行い、いくつかの校則を変更すべきかどうかを討論しました。それぞれの立場になりきって議論するのはとても楽しかったです。このアクティビティのおかげで、私たちは様々な立場を理解し、それぞれの役割や視点によって、異なる理由から校則が作られているということに気づくことができました。

今回私たちが主に活用したATLスキルは、「コミュニケーション・スキル」と「思考スキル」です。クラスでたくさんの意見を交わし、世界中に存在するルールの背景にある理由について深く考えました。また、校則がそれぞれの社会の価値観や期待をどのように反映しているかについても考察しました。

今回の単元は本当に楽しかったです。クラスメイトと意見を交わすのは充実した時間でしたし、何より様々な視点から校則について学ぶことは、とても興味深い経験になりました。

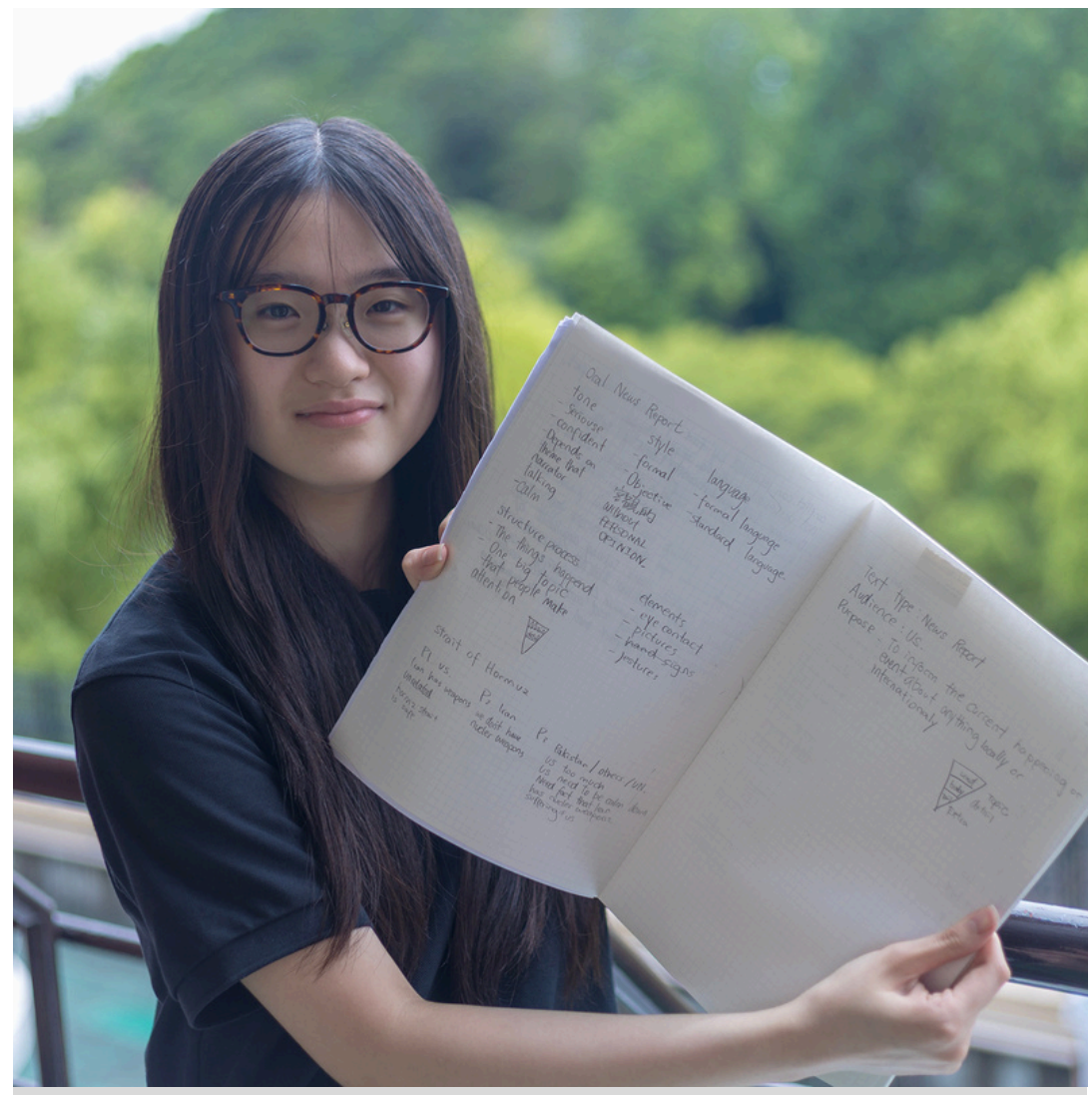
ホーム　　次へ

English Language Acquisition
Y.U. - Grade 8

現在、「English Language Acquisition（英語言語習得）」の授業では、映画『True Spirit』に関するエッセイを作成しています。この作品は、16歳の Jessica Watson が「最年少で単独無寄港世界一周航海を達成する」という夢を決して諦めず、最終的にそれを成し遂げる姿を追った伝記映画です。今回の課題で、私たちは Jessica の家族が彼女の旅路をどのように支え続けたかに焦点を当て、考察エッセイ（リフレクティブ・エッセイ）を書いています。

このトピックの中で私はJessicaの感情や行動を分析し、それらの感情に対して家族がどのように寄り添い、サポートしたのかを探究することが楽しいです。映画の中には、彼女の表情や振る舞いから感情を推測し、「行間を読み解く」必要がある場面がいくつもありました。そのため、想像力を膨らませて深く思考することができ、とても面白かったです。

この取り組みは、IBの学習者像（Learner Profile）にある「考える人（Thinker）」の資質に直接つながっていると感じています。Jessica の感情を解釈し、その洞察をもとに家族のサポート体制を分析することで、批判的思考力（クリティカル・シンキング）と想像力の両方を養うことができました。



English Language Acquisition
L.O. - Grade 9

小さな誤解が、時にどうして大きなケンカへと発展してしまうのか、不思議に思ったことはありませんか？

9年生の「Language Acquisition（言語習得）」の授業では、現在「紛争解決（Resolving Conflicts）」という単元に取り組んでいます。日々の授業では、様々なニュース記事や動画を分析し、世界規模や国家間の紛争から、日常生活の中での身近な誤解にいたるまで、幅広いトピックを探究しています。この学習を通じて、平和的な解決を導くためには、異なる文化的な視点や様々な見解を考慮することがいかに重要であるかを学びました。

今回の単元で特にエキサイティングだったのは、ペアで行ったアクティビティです。私たちは提示された特定の主張に対して、賛成か反対かをその場で瞬時に決める必要がありました。そしてパートナーと協力しながら、自分たちの主張を裏付ける理由を素早く考え出し、クラス全体の前で発表したのです。この挑戦的なタスクを通じて、私のATLスキルである思考スキルとコミュニケーション・スキルが向上しました。

これらの経験を通じて、私は国際バカロレア（IB）の学習者像にある重要な資質を育み、批判的思考力（クリティカル・シンキング）を強化することができました。異なる意見を尊重し、その価値を理解することを学ぶ中で、私はより「心を開く人（Open-minded）」になることができました。さらに、パートナーとともに自分の考えを発表したことで、「コミュニケーションができる人（Communicator）」としても成長できました。

この単元は、IBのグローバルな文脈（Global Context）である「公平性と開発（Fairness and development）」に直接結びついており、対立を管理し、平和を築くための実践的な手法を学ぶことができたため、本当に楽しかったです。

Japanese Language Acquisition
N.Y. - Grade 10

「Japanese Language Acquisition（日本語言語習得）」の授業では、「繋がり」という概念に焦点を当てながら、社会におけるスポーツの深い役割について探究してきました。私たちはまず、スポーツの様々なカテゴリーを分類することから始め、応援やサポートがもたらす効果（ストレス解消、モチベーションの向上、社会的絆の構築など）について話し合いました。これらのディスカッションを通じて、スポーツが個人だけでなく、コミュニティや国家にも強い影響を与え得るということを理解しました。

この単元の重要なパートとして、私たちは現在日本で進められている「地域移行（chiiki ikou）」――つまり、学校の部活動を地域のクラブ活動へと移行させる取り組みについて調査しました。このトピックを通して、少子化や部活動に参加する生徒の減少、そして教員の負担増加といった、日本が直面している重要な社会問題について分析しました。そして、この移行が「新たな繋がりの機会」を生み出すのか、それとも「伝統的な学校文化」を衰退させてしまうのかについて、自分たちの視点を表明するオピニオンコラムを書く練習をしました。

今回の単元で最も活用したATLスキルは、「思考スキル」と「リサーチ・スキル」です。この問題を多角的な視点から検証することで、IBの学習者像にある「心を開く人（Open-minded）」や「振り返りができる人（Reflective）」の資質を育むことができました。私個人が一番楽しかったのは、クラス討論の中で様々な意見を聞けたことです。それによって新しい視点に気づき、より深く考えることができました。この単元は、スポーツが単なる競技（競争）にとどまらず、人間関係を築き、コミュニティを強化し、よりインクルーシブ（包摂的）な社会を創り出すためのものであるということを教えてくれました。

Mandarin ab initio
S.C. - Grade 11

「Mandarin Ab Initio（中国語初級）」の授業では、現在「アイデンティティ（Identities）」というテーマについて学んでいます。例えば、時間割や天気、服装、そして旧正月（春節）のお祝いといった、日常生活にまつわるトピックでの表現方法を勉強しています。

読み書きに焦点を当てた教科書での学習だけでなく、中国のお菓子のパッケージやポスターの分析、単語や絵カードを使ったゲームなど、様々なアクティビティを通じてスピーキングやリスニングのスキルも磨いてきました。

中国語の学習で私が最も楽しいと感じる瞬間は、自分のバックグラウンドとは異なる、それまで知らなかった言語や文化への理解が深まる時です。新しいことを理解できた時や、以前はできなかった簡単なコミュニケーションが上手く取れた時には、大きなやりがいを感じます。

また、このクラスは初心者向けに設計されたカリキュラムになっているため、自分の成長がはっきりと目に見えるのも魅力です。中国語を学ぶことで、文化への理解が深まり、より「心を開く人（Open-minded）」として、異なるものの見方や考え方を尊重できるようになりました。

このコースはATLスキル、特に「コミュニケーション・スキル」と「自己管理（セルフマネジメント）・スキル」の育成に役立っています。言語の習得には毎日の継続的な練習が不可欠なため、自らを律し、自分の学習に責任を持つ方法を身につけることができました。その成果を試すため、今回初めて学外で中国語検定（HSK2級）に挑戦したのですが、わずか6ヶ月の学習期間で満点近いスコアを獲得することができました！このコースは、私が「コミュニケーションができる人（Communicator）」、「探究する人（Inquirer）」、そして「挑戦する人（Risk-taker）」へと成長していく手助けをしてくれており、まさにIBの学習者像（Learner Profile）とも深く結びついています。

戻る　　ホーム

玉川学園において、「自由研究」はカリキュラムの歴史的な礎であり、本校の基盤である「全人教育」の理念と深く結びついています。この授業は、従来の教室での暗記型の学習にとどまることなく、児童生徒たちが「探究・行動・振り返り」の継続的なサイクルを通じて、自分だけの情熱を自由に追い求めることができるようにするものです。
今月は自由研究の中で「Rosaku（労作）」に焦点を当て、まさにその理念そのものを自由研究のプロジェクトテーマとして選んだ生徒へのインタビューをお届けします。

―― お名前を教えてください。
K.M. です。

―― あなたの「Jiyukenkyu（自由研究）」は何ですか？
「Rosaku（労作）」です。

―― なぜ自由研究に「Rosaku」を選んだのですか？
私のお母さんが野菜が大好きで、「Rosaku」の活動では野菜を植えることができると聞いたからです。それに、去年ペガサス祭で「Rosaku」の人たちが野菜を販売しているのを見て、自分もやってみるのはすごく良いアイデアだなと思ったのがきっかけです。

――「Rosaku」の時間には、具体的にどんなことをしているのですか？
畑に行って種を植えています。今年はトマト、ジャガイモ、ヘチマ、そして玉ねぎを植えました。玉ねぎは一人2個ずつもらうことができたので、家に持ち帰って、お母さんに牛丼の具にしてもらいました。とても美味しかったし、自分が育てるのを手伝った食べ物を食べているんだと思うと、誇らしい気持ちになりました。 他には、腐ってしまった植物を回収して堆肥（コンポスト）にしたり、野菜を傷つける虫を駆除したりしています。虫を殺すのは好きではないけれど、野菜を守るためには必要なことなのだと理解して取り組んでいます。もし雨が降った日には、Mr White が植物に関するクイズを作って出してくれます。

―― IBと「Rosaku」にはどんな繋がりがありますか？
「Rosaku」ではコミュニケーション・スキルを使っています。例えば、何をすればいいか分からない時に、他の学年の生徒に助けを求めたりします。6年生や7年生の生徒たちと一緒に活動するのはとても楽しいです。お互いの趣味について話したりして、新しい友達もできました。

―― 今年の「Rosaku」で達成したい目標は何ですか？
お母さんのためにもっとたくさんの野菜を作りたいです。それから、収穫した野菜を他の人たちにも販売できるようになりたいです。

――「Rosaku」の一番良いところは何ですか？
自分のためだけでなく、他の誰かのためにも野菜を植えられるところです。それに、環境を守ること（環境貢献）にも繋がっています。

―― これまでにどのようなスキルが身につきましたか？
道具を使って土を掘る方法を学びました。これは私にとって初めての経験でした。お母さんはお花を育てているので、お母さんのガーデニングも手伝ってあげたいなと思っています。

―― 来年、他の人たちに自由研究として「Rosaku」をすすめたい理由は何ですか？
とにかくすごく楽しいし、たくさんの新しい経験ができるからです。新しいスキルも身につきます。農場がある学校はそんなに多くないと思うので、週に一度、こうして農場で活動できるのは素晴らしいことだと思います。「Rosaku」はいい運動にもなりますよ！

ホーム

20 YEARS INSPIRING STUDENTS

An Interview with Mr. Osawa

Mr. Osawa は、生徒として、そして教師として、合わせて25年以上もの歳月を玉川学園で過ごしてこられました。今回のインタビューでは、Sさんと Kさんが、これまでに学校がどのように変化してきたか、教師としての原動力（インスピレーション）は何か、そして未来の教育者たちへ向けたアドバイスについて、お話を伺いました。

— 先生が初めて玉川学園に来られた頃、学校はどのような様子でしたか？また、当時の生徒と今の生徒の最も大きな違いは何だと思いますか？

実は、私が初めて玉川学園に来たのは教師としてではなく、一人の中学生としてでした。当時は、現在のサイテックセンターが建っている場所に牛がいましたし、中央校舎の前は一面の丘で、雪が降るたびにみんなでソリ滑りをして遊んでいたんですよ。新しい体育館もなければ、グラウンドに人工芝も敷かれていなかったので、私たちは土のグラウンドでサッカーをしていました。

キャンパスの景色こそ大きく変わりましたが、生徒たち自身は昔も今もそれほど変わっていないと感じます。今の生徒たちも、昔の生徒たちと全く変わらない素晴らしい可能性を秘めています。

— 先生の学生時代、特に気に入っていた流行（トレンド）はありましたか？

間違いなく「たまごっち」ですね！誰もが鞄に一つはぶら下げていました。それから、授業中にこっそりテトリスをやったり、時には机をくっつけてトランプをしたりしたこともあります。今振り返ると、決して褒められた行動ではなかったと思いますが、今となってはクスッと笑える楽しい思い出です。

— もし、教師としての初日を迎えたばかりの「過去の自分」に一つだけアドバイスを送れるとしたら、それは何ですか？

もっと肩の力を抜いて、ただ「自分らしく」いればいい、と伝えたいですね。教師になったばかりの頃の私は、生徒たちに侮られてはいけないと思い、とても厳しく接しなければいけないと感じていました。「教師とはこうあるべきだ」という思い込みから、自分の周りに見えない壁を作ってしまっていたのです。

当時を振り返ると、私は規律を重んじることに必死になりすぎて、生徒たちに体育の授業を楽しんでもらうための工夫に十分な目を向けられていませんでした。私自身が持つ「スポーツへの愛」をみんなと共有したいと思っていたはずなのに、多くの生徒たちからは単に「怖い先生」「厳しい先生」としか見られていなかったと思います。もしもう一度最初からやり直せるなら、強がって見せることよりも、生徒との間に信頼関係を築き、彼らを励まし応援することの方がはるかに大切なのだと、過去の自分に教えてあげたいです。

ホーム　　次へ

Interview with Mr Osawa

― 体育の教師として、最も大きな達成感を感じるのはどのような時ですか？
私にとっての達成感は、もともとスポーツが得意な生徒がさらに上手になる姿を見ることではありません。最もやりがいを感じるのは、運動が苦手な生徒たちが体を動かすことを楽しいと感じ始め、ついに目標を達成できた瞬間です。
例えば、跳び箱を怖がっていた生徒たちのことをよく覚えています。彼らがついに跳び箱を跳び越えることができた時、その顔にあふれた笑顔は今でも忘れられません。そのような成長の瞬間に出会えることこそが、私にとって教師という仕事の大きな意義になっています。
だからこそ私は、常に一人ひとりの生徒を注意深く観察するよう心がけています。恐怖心があるのか、あるいは単に正しいコツ（技術）をまだ掴めていないだけなのか、それとも上手くいかない別の理由があるのか。何が彼らの足を引っ張っているのか（課題なのか）を理解できれば、その子のニーズに合わせた的確なアドバイスを贈ることができます。そのサポートによって生徒が壁を乗り越えられた時、これまでのすべての努力が報われたと感じるのです。

― これほど長い年月、教師を続けるための原動力（モチベーション）になっているものは何ですか？
まず何よりも、いつも私を支えてくれた家族の存在があり、本当に感謝しています。そしてそれ以上に、私は教師という仕事が心から大好きなのです。どんな職業でもそうであるように、これまでの長い年月の中には大変な時期や多くの困難もありましたが、教師を辞めようと真剣に考えたことは一度もありません。
自分が大好きなことを仕事にできている私は、信じられないほど幸運だと感じています。毎日、生徒たちと共に過ごし、彼らの成長を見守り、それぞれの目標に向かって進む姿をサポートできる――。生徒たちの成長していく姿を見るたびに、自分がなぜ最初にこの職業を選んだのか、その原点を思い出すことができます。

過去20年以上を振り返ってみても、教師は誰にとっても最高にやりがいのある仕事の一つだと確信しています。私は玉川学園という素晴らしい環境で働くことができて本当にラッキーでしたし、それこそが、私が今でも毎日ワクワクしながら学校に通い続けられている一番大きな理由です。

― 部活動（クラブ活動）を通じて、生徒たちにどのようなことを学んでほしいと願っていますか？
生徒たちには、粘り強さ（忍耐力）やチームワーク、そしてお互いを支え合うことの大切さを学んでほしいと願っています。人生において、成功はいつもすぐに手に入るわけではありませんし、時には困難な状況に直面することもあります。部活動を通じて、生徒たちは共に一生懸命に汗を流し、仲間を励まし合い、たとえ物事が計画通りに進まない時でも諦めずに挑戦し続けることを経験します。
そうした経験は、卒業後の人生においても非常に価値のあるスキルとなります。大学であれ職場であれ、周囲と協力し合い、課題に直面しても挑戦し続ける能力は、教科書から簡単には学べないものです。だからこそ私は、部活動が生徒たちの成長において――単に一人のアスリートとしてだけでなく、一人の『人間』として成長していく上で――今でも極めて重要な役割を果たし続けていると信じています。

― 最後に、将来先生になりたいと考えている生徒たちへアドバイスをお願いします。
教師は、世界で最もやりがいのある仕事の一つです。最近のメディアではその大変さばかりが注目されがちですが、若者たちが夢を追いかける姿を間近でサポートできる、本当に素晴らしい職業なんですよ。私の何よりの大きな夢は、いつの日か、玉川学園の卒業生たちが教師となってこの場所に帰ってきてくれることです。
そして私自身が、彼らに「自分もこんな先生になりたい！」と思ってもらえるような教師であり続けたいと心から願っています！

GRADE 12 MOCK EXAMS

机の上は片付けられ、最後のタイマーが鳴り響き、部屋全体から一斉にホッとした大きなため息が聞こえてきました。12年生の模擬試験（Mock Exams）が、ついにすべて終了したのです！
最高学年である12年生たちはこの1週間、カフェインと単語帳、そして強い意志だけをエネルギー源にして駆け抜けました。過去問（模擬問題）に立ち向かい、さまざまな教科で出された論文課題を乗り越え、刻一刻と迫る時計の針をにらみつけながら戦い抜きました。
今回は「あくまで」模擬試験ではありましたが、彼らが注ぎ込んだ努力は間違いなく本物でした。そして今、彼らは見事にその試練を乗り越えたのです！

また、試験監督として名乗りを上げ、試験がスムーズに進行するようサポートしてくださった父母会の保護者ボランティアの皆様に、心より感謝申し上げます。皆様がその場にいてくださったおかげで、会場は落ち着いた雰囲気に包まれ、生徒たちにとって心強い励ましとなりました。
以下に、ボランティアに参加された保護者の皆様からのコメントをご紹介します。

Ms. K: クラス代表委員として、6年生で初めてDP模擬試験の監督サポートに参加させていただきました。
朝早くから自習に取り組む子どもたちの姿や、真剣に試験に向き合う様子を間近で見るとともに、教科によって辞書や電卓を使用できたり、試験前に5分間の黙読時間が設けられていたりと、日本の試験とは異なるDP試験の様子を知ることができ、新しい学びがたくさんありました。
また、IBコースの先生方や先輩保護者の皆様とお話しする機会もあり、子どもたちのこれからの学びや学校生活について知ることができたことも大変貴重な経験でした。
参加できたことに感謝いたします。

Ms. I:今回は昨年の秋に続き２回目の参加でした。
ボランティアを通して、試験の様子や会場の雰囲気を間近で見ることができ、
学校やＩＢプログラムへの理解がより深まりました。特にＤＰ試験が厳格なルールのもと実施されており、試験運営を支える先生方の細やかな配慮やご尽力があって、試験が円滑に実施されているのだと強く感じました。

また、１２年生が最後まで集中力を切らさず、真剣に試験に取り組む姿がとても印象に残りました。

ボランティア参加者に対しても丁寧にご対応いただき、心より感謝申し上げます。
他学年の保護者の方と交流する機会にも恵まれ、大変有意義な経験となりました。
貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

ホーム　　次へ

GRADE 12 MOCK EXAMS

Ms. M: DP模擬試験監督サポートは、今回で2回目の参加です。生徒からの申し出への対応や試験運営の補助を行いますが、先生方が常にサポートしてくださるため安心して参加できます。また、試験会場の雰囲気や生徒たちの真剣な姿勢を間近で感じることができ、保護者にとっても貴重な経験でした。

今回、私が最も心を動かされたのは、午前の試験終了後、生徒達が私達保護者に向かって「ありがとうございました」と丁寧に頭を下げてくれたことです。

私が担当したのは午前中でしたが、生徒達は昼休憩を挟んで午後の試験も控えています。
次の試験への緊張や不安、自分のことで精一杯になっていてもおかしくない状況だったと思います。それにもかかわらず、感謝の言葉を伝えてくれる姿に深く感動しました。
知識や学力を身につけることはもちろん大切ですが、相手への感謝を言葉と行動で表せることも、人として大切な力だと思います。12年生の皆さんが、そのような力を自然に身につけていることを大変頼もしく感じました。
本試験まであと少しです。これまで積み重ねてきた努力を信じ、自分らしく力を発揮してください。保護者の一人として、心から応援しています。

Ms. I: 2回目の参加ですが、模擬とはいえ本番同様の緊張感ある試験会場の雰囲気に改めて身が引き締まる思いでした。早朝から自主的に会場入りして準備する生徒たちの姿、そして全員が真剣に問題に向き合う様子に心を打たれました。

ESSの試験では、グラフや地図の読み解き、計算機を使った解答、英語での長文記述など、多岐にわたる出題形式に驚かされました。

大学進学はもとより、社会に出てからも活きる学びを実践しているＩＢの教育の深さを、改めて実感しました。子どもたちの日頃の努力と成長を誇りに思います。

高校11年生のY.K.さんは、最近、東京で上演された舞台TAIYO MAGIC FILM フレッシュ公演『ウエディング・ドレス』に出演しました。
ファーニバル先生はYさんに、演劇の世界へ進んだ歩みについて話を聞きました。演技に興味を持ったきっかけや最近出演した舞台、感情豊かな役柄を演じる難しさ、そしてIBの学習と稽古をどのように両立しているのかについて話してもらいました。また、お気に入りの勉強法や、IBで培った自信について、さらに舞台で活躍することを夢見る生徒へのアドバイスも伺いました。

演技を始めてどのくらいになりますか。
2年前に演技を始めました。

演技を始めようと思ったきっかけは何ですか。
私は小さい頃から俳優になることが夢でしたが、始める機会がありませんでした。9年生の時に、脚本制作や演出も含まれた演劇ワークショップに参加しました。演技がとても楽しく、「これからも続けたい」と思うようになりました。

脚本を書くことと演じることでは、どちらが好きですか。
どちらも好きですが、演じることの方が好きです。

昨年のMYPドラマ公演では脚本を書きましたね。どのくらい時間がかかりましたか。
脚本の土台は数時間で書き上げ、その後、メンバーと共に編集に時間をかけました。

最近、東京で『ウエディング・ドレス』という舞台に出演しましたね。物語の概要と、演じた役について教えてください。
物語は、結婚式の準備をしている麻美という女性が主人公です。結婚式の準備はウェディングプランナーの本条さんが担当しています。しかし、麻美のお父さんは結婚に反対しており、そのことが麻美をとても悲しませています。麻美と本条さんは、お父さんがなぜ結婚に反対しているのか理由を知るために、お父さんをだます作戦を立てます。その後、麻美の家族や他のウェディングプランナー、テレビクルーなどが、同じ控え室になぜか全員集まってしまい、それぞれ異なる視点から一つの出来事を見るシーンが印象的なハートフル・シチュエーション・コメディです。

私が演じたのは「楓」という役です。楓は過去の人物であるため、メインの結婚式の場面には登場しません。楓は結婚前に妊娠し、バンドマンである恋人と結婚する予定でした。しかし、結婚式の準備をしている最中に癌になってしまいます。楓は、自分の命を優先するか、お腹の赤ちゃんの命を優先するかという難しい選択を迫られます。楓は、生まれてくる娘「未来」に会いたいという思いから出産を選びました。楓の父親は、自分の命を優先しなければ勘当すると言いましたが、楓はそれでも未来を優先し、最終的に亡くなってしまいます。
楓の物語を通して、周りの人々のさまざまな感情も描かれています。

セリフはどのように覚えましたか。
私が一番よく使う方法は、自分のセリフを録音し、通学中に何度も聞くことです。

授業内容も同じような方法で覚えていますか。
学校の勉強では、自分の声を録音することはあまりありませんが、音声を聞いたり動画を見たりすることは、内容を覚えるのにとても効果的だと思います。私はよく「Kognity」の音声を聞いていて、とても役立っています。

ホーム　　次へ

新しい知識を覚える方法として、他の生徒にも音声を聞くことを勧めますか。
はい、お勧めします。短い時間でたくさんの情報を学ぶことができる、とても良い方法だと思います。

私もそう思います。通学中に聞くことができますし、何度でも繰り返し聞くことができますね。
学校の勉強と演技はどのように両立していますか。
両方の時間を確保するのは大変ですし、公演が近づくと稽古に多くの時間を取られるので、時間を上手に使わなければなりません。勉強はとても大切だと分かっているので、やるべき課題は必ず終わらせるようにしています。公演の準備をする時も、まず優先して勉強する内容を決めます。課題や宿題を最優先に取り組み、その後、時間があれば自主学習をしています。

演技で一番難しいことは何ですか。
演技では、自分が演じる人物の感情や置かれている状況を理解しなければならないことが一番難しいです。その人物の感情を自分なりに考え、それを観客に正確に伝えなければなりません。自分がまだ経験したことのない出来事を経験している人物を演じることもあるので、とても難しいです。
今回演じた楓という役では、とても悲しい場面を演じました。楓は劇中で唯一、新しい命をお腹に宿しながらも自らの「死」に直面する人物でした。。そのような感情を表現しなければならず、自分自身の経験だけを頼りに演じることはできませんでした。そのような時には、演出家がサポートしてくれました。。

IBで学んだことは、演技にどのように役立っていますか。
私は小さい頃、とても人見知りで、初めて会う人と話すことが苦手でした。しかし、IBでさまざまな人とコミュニケーションを取る中で自信をつけることができ、今では人と話したり、人前で演技をしたりすることにも自信を持てるようになりました。

演劇を始めたいと思っている生徒へ、アドバイスをお願いします。
演劇は本当に楽しいです。普段とは違う世界に入り込み、さまざまな役になりきることができます。演劇では、観客の心を動かすような表現ができ、自分の感情をさまざまな場面を通して表現することができます。私はそうして自分の気持ちを表現することがとても好きです。私からのアドバイスは、自分のコンフォートゾーンから一歩踏み出してみることです。

俳優やダンサー、アイドルなど、さまざまな形で有名になりたいと夢見る人はたくさんいると思います。私からのアドバイスは、小さなことから始め、一歩ずつ前進しながら夢に向かって努力を続けることです。

演劇に関する将来の夢を教えてください。
私は舞台で演じることが大好きです。次に出演したい作品は、ドラマや2.5次元ミュージカルです。そして将来は、プロの俳優として活躍したいと思っています。

戻る　　ホーム

J.E. - UWSEA Singapore

こんにちは！10年生のJ.E.です。私は5月に交換留学プログラムを利用して、シンガポールにあるUWCSEAという学校に行ってきました。現地での滞在期間は3週間という短い間でしたが、たくさんの観光地を巡り、一生モノになるような新しい友情を築くことができました！

最高だった経験の一つは、友達と一緒にチャイナタウンやサマセットといった色々な場所に遊びに行ったことです。フランスからやってきた別の交換留学生との出会いも含め、本当に多様な文化を持つ人たちと友達になることができ、滞在中に彼女ととても親しくなれたのはラッキーでした。また、日本語の授業を通じて日本人の友達も数人できました。お互いにたくさんの違いがあっても、様々な人と知り合えるのは本当に楽しかったです。

学校生活そのものも、授業を含めてとても充実していました。何より一番良かったのは、毎日15時には学校が終わることです。UWCSEAではIBプログラムの授業は受けず、日本とはシステムが大きく異なっていたため、世界には学校によってそれぞれ違う教育システムがあるのだと知ることができたのも、非常に興味深い経験でした。

総じて、滞在期間は短かったものの、本当に多くのことを学び、経験することができました。もし許されるならもっと長く滞在したかったくらいですが、また留学に行ったり、新しいことに挑戦したりできる機会を楽しみにしています。

交換留学プログラムへの参加を考えている後輩の皆さん、このプログラムは文句なしで10点満点中10点です！ぜひ挑戦してみてください！

S.L. - Athenian School USA

今回の留学は、私の人生の中で最も印象深く、忘れられない経験の一つとなりました。私が滞在した Athenian School は、日本とはまったく異なる雰囲気を肌で感じるチャンスを私に与えてくれました。学校の周りには豊かな自然が広がっており、とても自由な校風でした。

こうした環境での活動を通じて、私は優れた英語力だけでなく、コミュニケーションや人と人との繋がりに関する多くの教訓を得ることができました。初めのうちは、言語の壁や文化の違いによる戸惑いもありましたが、毎日様々な人と話をすることで、次第に自分に自信が持てるようになっていきました。
ホストファミリーの存在も、私の留学生活において非常に大きかったです。彼らは私を温かく受け入れ、日々の交流を通じてアメリカの文化を理解できるようサポートしてくれました。一緒に過ごすうちに、まるで本当の家族の一員になったかのように感じることができ、ボードゲームをしたことなど、たくさんの思い出ができました。
何よりも驚かされたのは、多くのアメリカの学生たちが持つ高い自信と、将来への明確な目標です。自分の意見を共有することを恐れず、夢の実現に向けて懸命に努力する多くの生徒たちの姿は本当に素晴らしく、私も自分の将来について真剣に考える大きな刺激をもらいました。

この経験から私が学んだ教訓は、「多様な文化を受け入れる」ということです。この交換留学プログラムは、私にとって単なる異文化理解以上の価値を届けてくれました。私に大きな自信を与え、忘れられない思い出と、数多くの素晴らしい友情を育む機会をくれたのです。

Volunteering at Kobato Kindergarten

2023年から本校の10・11年生は、町田こばと幼稚園でサービス活動を行っています。町田こばと幼稚園は本町田にあるPYP認定校であり、同じIB校として共通の教育理念のもと活動できることが特色です。また、地域社会への貢献にもなっています。

主な活動は、運動会の運営補助、夏祭りでの遊びの屋台の企画・運営、預かり保育のサポートです。生徒たちにとっては、幼児との関わりや園の先生方のサポートを通して教育への理解を深めるとともに、コミュニケーション力やリーダーシップ、思いやり、責任感を育む貴重な機会となっています。

Y.I. (G10):
幼稚園の運動会でのボランティアは、とても有意義な経験になりました。私は主に、子どもたちが演技をする前に整列するのを手伝ったり、イベント全体を通してサポートをしたりしました。運動会が終わったあとは、用具を運んだりテントを片付けたりして、先生方の後片付けもお手伝いしました。
活動の中で一番嬉しかったのは、子どもたちと仲良くなれたことです。休憩時間には一緒に遊んでくれて、ぎゅっとハグまでしてくれたので、緊張がほぐれて、温かく迎え入れてもらえているなと感じることができました。
この経験を通して、運動会を成功させるためにはチームワークが不可欠であり、みんなが互いに助け合うことが大切なのだと学びました。このような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。

Grades 6-9 REIHAI

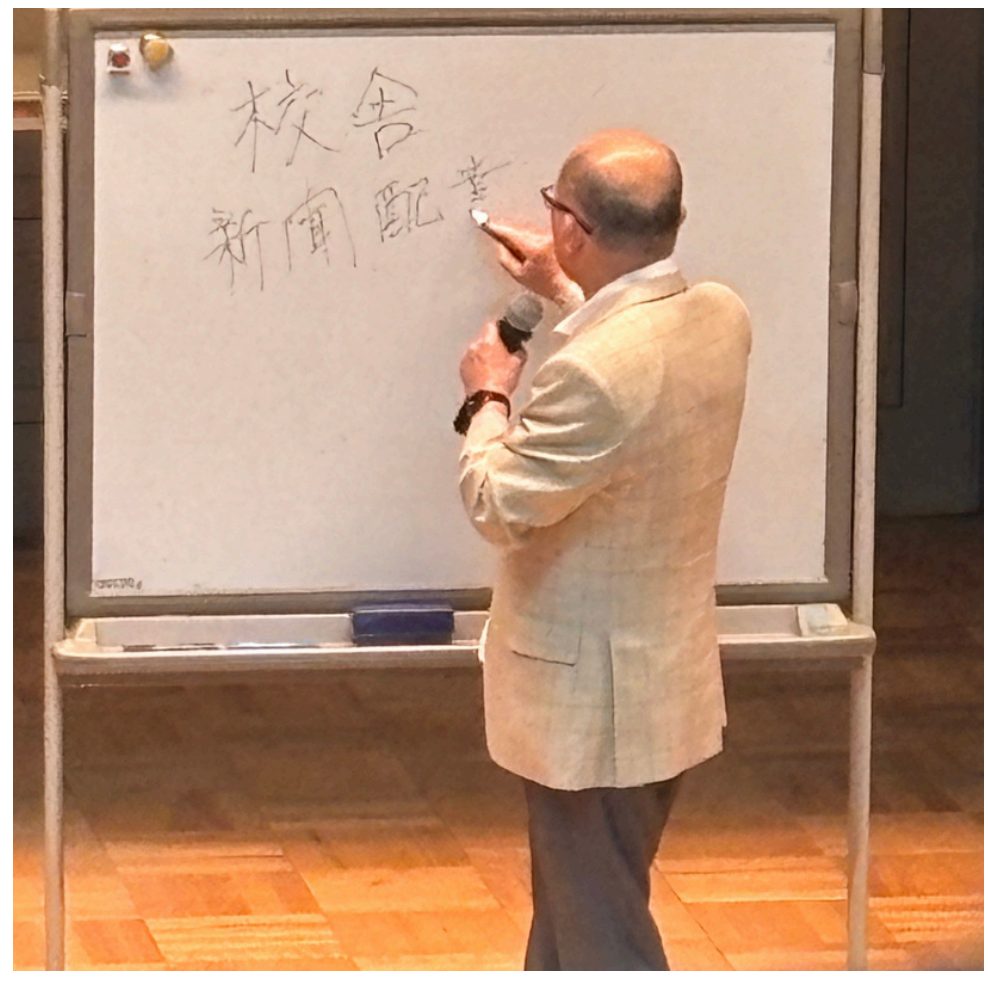
6月22日、小原芳明学園長による6-9年生特別礼拝が行われました。

毎年6月は、玉川学園創立者小原國芳先生の奥様である信先生、そして哲郎先生の命日にあたります。生前、信先生が好まれた白百合の花を講堂に飾り、聖書496番を歌い、特別礼拝をおこなっています。

小原芳明学園長をお迎えし、児童生徒は、玉川学園で創立当初から大切にしてきた「労作」の意義。そして、私たちが今置かれている恵まれた環境に感謝し、社会で必要なスキルを身に付けることの重要性や、知識の習得だけではない、探求学習とIB学習の深い関係。そして、AIが出す答えを鵜呑みにせずに、自分で考え、AIを使いこなす力を身に付けることの大切さについてメッセージをいただきました。

幼稚部から玉川学園に通ってきた私にとっても、毎年行われる6月の記念礼拝は特別なものです。当時、 園児として信先生そして、國芳先生のお別れ会に参加したことを思い出し、その当時の記憶は今も続いています。

Ms.Terasawa



Grade 6 Rinkangakko Presentation & Homeroom Meeting

Mr. Shimizu:
多くの保護者にご参加いただき、終始和やかな雰囲気で会を進められましたことに感謝いたします。 林間学校説明会では、日程や持ち物のほか、費用や６年生のＳＮＳ利用の現状と注意点についてお伝えしました。 父母会では学級の様子や課題、今後の予定を共有し、保護者同士でＩＢでの生活や気になることを相談し合いました。 今回の内容を踏まえ、ルールを守りながら林間学校に向けて全力で取り組んでまいります。

M.O. (G6): 私は林間学校の説明会で行なったプレゼンテーションについて、感想を共有したいと思います。
最初、学級委員が保護者の皆さんの前で林間学校についてプレゼンをしなければいけないと聞いたとき、ワクワクする気持ちと不安な気持ちが同時に押し寄せました。自分の親だけでなく、友達の保護者からも見られるので、良い発表にしたいというプレッシャーをすごく感じました。だから、一生懸命練習しようと心に決めました。本番までの1週間、もう一つのクラスの学級委員であるSと話をしましたが、二人とも本番に向けてとても緊張していることを共有しました。彼女と話したことで、「自分は一人じゃないんだ」「プレッシャーを自分一人で抱え込まなくていいんだ」と思えるようになりました。
プレゼンの前日、お母さんの前で自分の担当する文章を読んで練習しました。お母さんは、ゆっくり、はっきりと話すことや、落ち着いて話すことなど、たくさんのいいアドバイスをくれました。また、私が知らなかったいくつかの漢字の読み方も教えてくれました。驚いたことに、その日はそれほど怖くありませんでした。きっと、友達や家族が支えてくれていると分かっていたからだと思います。その日の夜は、すっきりと目覚められるように早く寝ました。
そしてついに、本番の日がやってきました。私が講堂に入ると、Fがすでに練習していました。彼に「一緒に通して練習しよう」と声をかけられたので、並んで練習を始めました。すぐにS、Y、そしてJPクラスの学級委員も加わり、5人で一つのチームとして練習を重ねました。
いざ本番が始まると、なんと私が最初のスピーカーでした！保護者の皆さんの視線がみんな私に集まりました。でも、これはいつもの練習の延長線なんだと思うようにして、お母さんや友達と一緒に練習したときのように話すことだけに集中しました。
プレゼンが終わったあと、私たちはみんなクタクタでした。保護者会が終わるのを待つ間の2時間、パソコンで遊んだりトランプをしたりして過ごしました。やっとお母さんたちが出てきたとき、自分の親からも、友達の保護者からも、たくさん褒めてもらえました。本当に素晴らしい経験になりました。私たちをプレゼンターに選んでくださった先生方に、とても感謝しています！
（おまけ） 当日の朝、学校に着いたとき、正面玄関が閉まっていました。お母さんに電話したら、「事務室のドアを試してみたら？」とアドバイスをくれ、行ってみたら無事に開いていました！本当にお母さんに救われた朝でした。

Service as Action and Canada trip briefing

2026年6月13日、「IB MYP Service as Action（奉仕としての活動）保護者ワークショップ」が開催されました。このワークショップは、MYPにおける「サービス・ラーニング（奉仕学習）」についての貴重な情報を保護者の皆様に共有する機会となりました。

セッションはMr.Lingaが主導し、Ms.Kitamuraが日本語通訳を担当、さらにA.さんによるServiceのプレゼンテーションが行われました。ワークショップの冒頭では、Mr.Furnivalから、児童生徒たちのIB教育の旅路における「Service as Action」の目的と意義についてお話がありました。
「Service as Action」は、児童生徒たちが授業で得た知識を実社会に適用することを促すものです。身につけた知識を活かして活動をデザインすることで、地域社会に意味のある貢献を果たしていきます。児童生徒たちは「調査・計画・行動・振り返り・実証（成果の提示）」というサイクルを経験し、このプロセスを通じてコミュニティの中にあるニーズを見つけ出します。奉仕活動の形態には、直接的な活動、間接的な活動、リサーチ（調査）、アドボカシー（提唱）などがあります。

奉仕活動は、児童生徒たちが自身の強みや弱みを知り、新たな課題に立ち向かい、活動を通じて他の児童生徒や地域社会の人々と協力し合う絶好の機会となります。さらに、これらの経験はIB学習者像の資質をより一層育むとともに、IBの理念（ミッション・ステートメント）である「探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育成し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する」を体現することにも繋がります。
保護者の皆様は、MYPにおけるお子様の奉仕活動の旅路を支える上で、極めて重要な役割を担っています。ぜひご家庭でも、地域社会の課題についてお子様と話題にしていただき、それらの問題を解決するためにどのような奉仕活動が可能か、是非おうちで一緒に考えてあげていただければと思います。また、お子様の努力や成果を認め、報告のあった際にはやったことを称えてあげてください。

保護者の皆様の継続的なサポートに、心より感謝申し上げます。

A: この経験は、私にとって大きな自信に繋がりました。大勢の観客である6年生の保護者の皆様の前で、自分の「Service as Action（奉仕としての活動）」について上手く説明することができたからです。
発表の前は、オンラインも含めて予想以上に多くの方が参加されていたので、とても緊張していました。しかし、スライドや原稿を細部までしっかりと準備し、はっきりと話すことを意識しました。さらに、聞き手の反応を見ながら発表のスピードを調整したことで、自分が伝えたかった計画通りの内容をしっかりと届けることができました。
今後は、さらに大きな舞台や大勢の人の前でプレゼンテーションやスピーチをする機会に挑戦し、もっと自信をつけていきたいです。

午後には、1回目の午後には、1回目の8年生 カナダ研修旅行 保護者説明会が開催されました。まずはじめに、Mr.Furnivalから日本語での挨拶があり、会がスタートしました。続いてマオアテ先生から、IBサミットの会場となる玉川ナナイモ・キャンパス（TNC）や、生徒たちが授業に参加し、ホームステイを経験するAspengrove Schoolの写真を交えながら、研修の概要についての説明がありました。その後、高橋先生から保護者の方に向けた必要な書類手続きについての説明があり、JTBの担当者様からは研修の行程や詳細な手配についてお話をいただきました。保護者の皆様におかれましては、さっそく書類の作成とご提出にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

10月に8年生の皆さんと一緒にカナダへ行けることを、教員一同とても楽しみにしています。生徒の皆さんも同じようにワクワクしてくれていることを願っています！

猛者ぞろいのライバルたち、そして台風の強風と激しい雨に立ち向かいながら、Y.H.さんは「本当の決意があれば、どんな悪天候も障害にはならない」ということを、その走りで証明してくれました。東京都通信陸上大会のハードル種目で自己ベストを更新したばかりの彼女が、雨の中での練習の日々や、レース中のアクシデントの乗り越え方、そして全日本中学校陸上競技選手権大会（全中）を見据えた高い目標について語ってくれました。

— 今回は、どのような大会に出場したのですか？
私が出場した大会は「全日本中学校通信陸上競技東京都大会（英語名：All-Japan Junior High School Track and Field Tokyo Metropolitan Championships）」です。以前行われた地域予選の大会で6位に入賞することができたため、この東京都大会への出場権を得ることができました。

— 大会に向けて、どのような準備をしてきましたか？
できる限り毎日、部活動にしっかりと参加しました。また、部活動が休みの日は、家の近くにある競技場（グラウンド）に行ってハードルの練習を重ねました。
大会当日はちょうど台風が接近していて大雨になることが分かっていたので、持ち物などの入念な準備はもちろん、あらかじめ風雨の中で走る練習も取り入れて備えました。

— 見事、自己ベストを更新した時の気持ちを教えてください。
大会のコンディションが良くなかったにもかかわらず、自己ベストを更新（アップデート）できたことは本当に嬉しかったです！ただ、レース中に全10台あるハードルのうち、8台目のハードルに少し足をぶつけてしまい、そこでスピードが落ちてしまいました。
来月（7月）には「第65回東京都中学校総合体育大会陸上競技大会 兼 第79回東京都中学校陸上競技選手権大会」という別の大会が控えています。これは6月28日に私が出場した大会と同じくらい重要な位置づけの大会なので、そこで再び自己ベストを更新し、16秒を切って走りたいと思っています。

— ハードルを始めてみたいと思っている人に、何かアドバイスはありますか？
ハードルを飛び越えながら走ることを「怖い」と思わないことです！大切なのは、走っている最中に自分自身の「リズム」をしっかりと刻み、そのスピードを最後のゴールまで維持し続けることです。

— ハードルにおける、これからの夢や目標は何ですか？
非常に大きな舞台である「全日本中学校陸上競技選手権大会（全中）」に出場することです。全中の出場権を獲得するためには、14.5秒を切るタイムで走らなければなりません。ですので、まずは今年中に15秒台で走ることに集中して、一歩ずつ目標に近づいていきたいです！

International Trade Challenge 2026

春休み期間中、Soai-senseiから案内された「国際貿易チャレンジ（International Trade Challenge / ITC）」の情報を聞いた E.I.さんはこのチャンスを即座に掴み取り、他校の友人とタッグを組んで、この権威ある名門コンテストへとエントリーしました。

先週の日曜日に行われた、熱気あふれる日本国内決勝（Japan Final）での激戦を終え、ついに公式結果が発表されました。その結果は――まさに目を見張るほど輝かしいものでした！

Eさんは、見事日本全国で第2位という素晴らしい栄冠を勝ち取りました！

決勝大会への道のりは、決して平坦なものではありませんでした。日本全国から108校が参加する中、この国内決勝（National Final）でプレゼンテーションを行う切符を手にできたのは、選び抜かれたわずか8チームのエリートのみ。Eさんは、H高等学校の優秀なチームメイトとタッグを組んで、審査員陣を圧倒する見事なビジネスプレゼンテーションを披露し、見事表彰台（トップ3）入りを果たしたのです。

勝利を導いたアイデア：ベトナムの倉庫ビジネスに革命を起こす

今年の課題は、「ベトナムのEコマース（電子商取引）分野におけるドローンの市場参入戦略を立案せよ」という、現実社会さながらの極めて複雑な難問でした。

Eさんのチームは、単に表面的なアイデアをなぞるだけにとどまらず、国際政策や市場の抱える切実な課題を深く掘り下げました。徹底的なリサーチの結果、彼らは「倉庫に対して災害防止のための厳格な安全検査を義務付ける」という、2024年に施行されたばかりの最新のベトナムの法律を発見したのです。
この情報と技術を点と線で結びつけた彼らは、画期的な「DaaS（Drone-as-a-Service：サービスとしてのドローン）」ビジネスモデルを設計しました。提案されたプランは、倉庫用ドローンが火災リスクを自動で検知し、デジタルダッシュボード上で危険度をスコア化、さらに法律で義務付けられているコンプライアンス（法令順守）レポートを瞬時に作成するというものです。さらにビジネスモデルを盤石なものにするため、彼らは保険会社との提携まで提案し、保険金の支払額を抑える仕組みをもピッチ（プレゼン）に盛り込みました。複雑な財務予測や市場規模の分析、マーケティング戦略、緻密なスケジュール管理にいたるまで、彼女たちのピッチはまさにビジネスのプロ顔負けの、圧倒的な完成度を誇るものでした。

次なる舞台は――シンガポール！

見事トップ3（第2位）に輝いたことで、チームは8月16日から8月20日にかけてシンガポールで開催される「国際貿易チャレンジ（ITC）世界決勝大会」に、日本代表として出場することが正式に決定しました！この驚くべき快挙を称え、世界大会への渡航費および滞在費は、フェデックス（FedEx）より全額支給されます。
E さんは、「この結果をご報告できることを嬉しく思うと同時に、日頃から学校が温かくサポートしてくださっていることに心から感謝いたします。8月のシンガポール世界大会に向けて、これからも全力で準備を進めていきます！」と、力強い決意を語ってくれました。
高いリサーチ能力、不屈の精神（グリット）、そして革新的なアイデアを見事に発揮してくれた二人のことを、学園コミュニティ全体がこれ以上ないほど誇りに思っています。世界へと羽ばたくファイナリストへ心からの祝福を送るとともに、この8月、世界の大舞台に挑む彼らに最高の応援を届けましょう！

Get to know YOUR teacher

Ms SIMI

―― 生まれ育った場所はどこですか？
インドのケララ州（インドの南部）です。

―― 教師になろうと思ったきっかけは何ですか？
私の父が化学を教える大学教授で、母が小学校の教員だったことに影響を受け、自分も教師になりたいと思うようになりました。

―― 担当している教科と、その教科を愛する理由を教えてください。
経済学です。この世界がどのように動いているのかを論理的・徹底的に理解させてくれるところが大好きです。それからTOK（知の理論）も！ 人生のあらゆる側面における「多様な視点」について深く考えさせてくれるので、本当にのめり込んでいます。

―― 先生の教科で良い成績を収めるために、生徒へのアドバイスはありますか？
自分の周りを見渡してみてください。私たちがすることのすべてに「経済」が隠れていることに気づくはずです。それを授業で学ぶ理論と結びつけてみてください。現実世界の具体的な一例（リアルワールド・エグザンプル）こそ、エコノミクスで高得点を獲得するための最大の味方ですよ。

―― 玉川学園で働くことの最大の魅力は何ですか？
素晴らしく温かいコミュニティです。先生方もスタッフも皆、優秀で、親切で、思いやりにあふれています。また、学校全体が「真・善・美・聖・健・富」の6つの価値を調和させる「全人教育」という哲学のもとで運営されている点も素晴らしいですね。

―― 玉川の生徒たちのどんなところが一番好きですか？
主体性があり、自由な思考ができるところです。また、生徒たちの温かさや、お互いを信頼し合っている姿にはいつも感銘を受けています。

―― お気に入りの学校行事は何ですか？
インターナショナル・デイとペガサス祭（文化祭）が特に大好きです。

―― なぜ日本で教えたいと思ったのですか？
日本には、豊かな文化体験や独特のライフスタイルがあり、他の国にはない唯一無二の魅力（ユニークさ）があるからです。

―― 日本のどんなところが一番好きですか？
多様な食文化を体験できること、そして絵画のように美しい自然の景色です。

―― 日本と母国（インド）の最大のプロセスの違い（違い）は何ですか？
日本は市民意識（マナーやモラル）が非常に高く、治安の良さ、時間の正確さ、そして一人ひとりの責任感の強さが際立っています。一方で、インドには「仕事とプライベートをきっぱりと切り替える（オフにする）」という文化がありますね。

―― IBの学習者像の中で、最も大切にしている資質とその理由を教えてください。 「Inquirer（探究する人）」です。世界を注意深く観察することによって、私たちは絶え間なく進化し続ける「知識」の一部になる方法を学ぶことができるからです。

ホーム　　次へ

Get to know YOUR teacher

—— 授業の中で、どのようにして「グローバルな視野を育んでいますか？
経済学は、生涯にわたって学び続けるための無限の可能性を秘めた、本当に美しい学問です。そのため授業では、日々のニュースや世界情勢についてオープンな心で語り合い、生徒たち自身の活発な議論を引き出すようにしています。

—— これまでに住んだことのある国はどこですか？ そこでの経験も教えてください。
私はこれまで、モルディブ、インド、中国、そして日本で教えてきました。 モルディブでは、敷地が限られていたため「二部制（シフト制）」で運営されている学校で、Aレベル（英国の高校卒業資格）の生徒たちを教えていました。面積わずか 8.3 平方キロメートルほどの小さな首都マレは、まるで独立した小さな世界のようでした。キラキラと輝く海と柔らかな白い砂浜に囲まれ、私はよく、目の前に広がる海とそこを行き交う船を眺めながら授業をしていました。
その後、IBプログラムを教えるために広島へ移住しました。本当に平和で美しい街です。週末に太田川のほとりで過ごしたり、歴史ある広島の本通商店街を散策したりするのが大好きでした。
その後は上海で8年間、IBDPコーディネーターおよび経済の教員として過ごし、本場の中華料理を開拓したり、中国国内のさまざまな都市を旅したりしました。その後一度インドに戻りましたが、パンデミックが勃発し、ロックダウン生活を送ることになってしまいました。その際、東京へ引っ越してくる前の一時期、玉川学園のIBクラスの生徒たちへ向けてオンラインで授業を教え始めたのです。

—— 先生に関する「驚きの事実」を一つ教えてください。
15歳の時、乗っていた列車が川に転落するという列車事故に巻き込まれましたが、奇跡的に生還しました。

—— 好きな食べ物は何ですか？
イドリとサンバール（私の故郷、ケララ州の朝食です）。

—— 日本で一番好きな場所はどこですか？
広島です。

—— お気に入りの映画は何ですか？
『マダム・イン・ニューヨーク（原題：English Vinglish）』です。

—— お気に入りの本は何ですか？
『There's No Free Lunch: 250 Economic Truths（タダより高いものはない：250の経済の真実）』です。

—— お気に入りの音楽アーティストやバンドは誰ですか？
マイケル・ジャクソンです。

—— 学校での一番の思い出は何ですか？
約1年間、画面越しにオンラインで教えていた2022年度のFuji組の教室に、同年9月に初めて足を踏み入れた瞬間です。生徒たちが温かいハグで私を迎えてくれたことは忘れられません。

—— 学校生活の中で、一番好きな時間はいつですか？
ホームルームで「空高く野路は遙けし」と校歌を歌う時間です。

—— 人生のモットー（お気に入りの教訓）は何ですか？
学びを絶対に止めないこと（Never stop learning）。

—— 新しいことを学ぶとき、一番好きな方法は何ですか？
観察すること、考えること、そして本を読むことです。